サービスラーニングで学んだ事

社会福祉学部社会福祉学科２年　武田　彩音
活動先：社会福祉法人　むそう
クラス：村上　徹也　先生

私はサービスラーニングで障害者支援の新たな目線に触れることが出来たと考える。今回の活動では生活介護のような直接的支援ではなく、当事者や法人の存在を広める間接的支援を行った。知的障害者と関わる機会のない人々にとって、障害者とは未知の存在であり、何をするか分からない、怖い、といった負のイメージを持たせてしまっている現状がある。それを解消するために、地域のお祭りに出店する一団体として出向き、地域に貢献することで普段関わる機会のない層に知的障害者さんを知ってもらい、住みやすい環境の基盤を作っているのが社会福祉法人むそうだ。『一生涯地域で暮らせるシステム作り』を理念とし、障害のある方の想いをサポートし、一生、地域で生活できるシステムを作ることがむそうの仕事である。

活動では、お菓子やジュースなどの飲食物、むそうで作っている物品などを販売することで地域の人々と交流した。

活動中様々な人々と交流し、心の暖かさに触れることが何度もあった。例えば、活動中に仲良くなり自身の身に付けていた光るブレスレットを一本くれた男の子や、露店に来てくれた女の子たちとふざけ合ったり、ジュースを買いに来てくれたおばさんと話し込んだり…。また、同じ日にボランティアやアルバイトなどでむそうの一員として参加していた日福生たちと仲良くなり、活動後も話す仲になった。また、地域の打ち上げにもお声を掛けて頂き、参加させて頂いた。そこでもその地域で暮らす人々や、お祭りに劇団として参加していた人々と交流した。劇団の方とは今でも良い関係を保っている。

活動を終えて、活動前は正しく理解出来ていなかった理念を、活動を終えた後に自分なりに把握することができた。また、お祭りにむそうのボランティア、ヘルパーとして参加していた学生スタッフや、むそうの職員の方と話すことで、人間関係の幅を広げることができた。

活動内では、障害を持つ方が同じ空間にいるのが自然ということが理想で、一人でも多くの人々に障害を持つ方のことを正しく知ってもらえたら、という願いを持って活動していることを感じた。

この活動の目的は、お祭りを主催者側として運営するのではなく、あえて地域イベント

の一出店者として参加することにより、普段の生活の中では決して関わることのなかった部類の人々に“社会福祉法人むそう”を知ってもらう。そして、毎年参加することにより、その地域で主催者として活動している地域の人々と信頼関係を結ぶことができ、世代を超えた地域のネットワーク上にむそうの名前が上がるようになる。地域の人々の縦の関係を介し、パイプを構築していくことで、普段の法人としての活動を円滑に行えるようになる。人手不足で自分たちだけでは運営ができないが、イベントを開催することでコミュニティの再構築がしたいという地域のニーズと、上記に挙げたようなむそうのメリットが合致し、今の地域へのイベント出店という形になったと聞いた。つまり、主の目的はお祭りにお客として参加している人々との関係作りではなく、お祭りを主催している地域で生まれ育った人々との関係作りであり、それが障害者さんのより良い環境に影響してくるのだ。

社会福祉法人むそうの地域の考え方は変わっていると感じた。というのも、地域と考える範囲には二種類あり、一つは利用者さんに関係がある所までを地域とするもの。地名で判断せず、利用者さんが関係のある場所であればどんどん手を広げていこうという。もう一つは、活動理念が同じなら地域というものだ。例え相手の法人の活動拠点が茨城でもそれは地域なのだ。

それによるメリットは大きい。例えば、地域の生産物を交換し、それぞれで新たな特産物を生産、販売し、資金とすることで元手を増やすのだ。

知多半島に NPO 法人が多い理由なども活動発表会後に教えて頂いた。行政が市民のニーズに気付かなかったのと、知多半島という土地に住む市民が民間でやっていこうという思いが強かったためだという。

また、福祉が土台になっているということを行政が分かっていないと話していた。これは「ヒーローを待っていても世界は変わらない」の著書の中での湯浅誠先生と同じ考えをしていて驚いた。福祉は国と県、市、個人とそれぞれ四分の一ずつ負担している。少しの負担で多くの利益を得られる福祉は地域活性化という面において重要なポジションにいるが、そのほんの少しの負担ですら削りたいというのが現代の行政である。

私は今回のサービスラーニングを通して、援助技術や支援方法だけではなく、人として大切な繋がりを教えてもらった。サービスラーニングを行ったからこそ、文章だけでは分からない大切なことを学べたのだと思う。このサービスラーニングで出会った人々とはこれからも繋がっていきたいと思うし、ボランティアとして来年もむそうの一員としてお祭りに参加させてもらいたいと考えている。